

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位（時間）	科目責任者
解剖生理学V	1年次	必修	講義	1単位（30時間）	竹内 法子
授 業 概 要					
<p>人体の基本的な構造および生体の機能や仕組みの要因や現象など、いわゆる生命現象を知る科目である。器官を系統に分けて、その構造形態と生体機能、恒常性の維持に関する内容を解説する。マクロ・ミクロの両面からアプローチして解説する。</p> <p>緻密で精妙な生体構造と機能の基本的な特性、病態との関連性についても解説する。</p> <p>生理機能検査学をはじめ、発展的内容を含む科目の基礎となる知識を修得する。</p>					
到 達 目 標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 内分泌系の構造と形態について、その特徴を理解し模式図を用いて説明できる。 ・ 内分泌系の機能、ホルモンとその調節について、理解し説明できる。 ・ 生殖器系の構造と形態について、その特徴を理解し模式図を用いて説明できる。 ・ 皮膚や特殊感覚器など感覚器系の構造と形態について、その特徴を理解し模式図を用いて説明できる。 ・ 皮膚感覚、内臓感覚、特殊感覚について、受容器、感覚神経、感覚中枢を機能的に理解し概要を説明できる。 					
回	学 習 内 容				担当教員
1	内分泌系：内分泌器官とその代謝調節の仕組み、ホルモンの化学の種類				竹内 法子
2	：ホルモンの機能①(視床下部、下垂体、松果体)				
3	：ホルモンの機能②(甲状腺、上皮小体、副腎皮質、副腎髄質)				
4	：ホルモンの機能③(精巣、卵巣、腎臓、心臓、胸腺)				
5	：ホルモンの機能④(膵臓、消化管ホルモン)				
6	生殖器系：男性および女性の生殖器と生殖①				
7	：男性および女性の生殖器と生殖②				
8	感覚器系：感覚の種類				
9	：体性感覚、内臓感覚、特殊感覚				
10	：感覚器としての皮膚と皮膚感覚				
11	：視覚器と視覚機能				
12	：平衡感覚器と平衡機能				
13	：聴覚器と聴覚機能				
14	：味覚器と味覚機能				
15	：嗅覚器と嗅覚機能				
学 習 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書及び参考書を基本に配付資料も加えて授業を行う。 ・ 配付資料は内容を理解して授業及び自習に活用する。 ・ 各回実施の講義内容を十分に復習し、理解を深めること。 					
評 価 方 法					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回講義以降、前回までの講義内容に関する小テストを隔回で行う。 ・ 定期試験(70%)及び小テスト(30%)により総合評価する。 ・ 遅刻や欠席等で小テストを受験しなかった場合は0点とするが、正当な理由がある場合は追試験を実施する。 ・ 再試験は小テストの内容を合わせて出題し、これを評価する。 					
先 修 科 目					
教科書、参考書					
〔教科書〕					
人体の構造と機能 第5版	内田さえ、佐伯由香、原田玲子	医歯薬出版株式会社			
ぜんぶわかる人体解剖図	坂井建雄、橋本尚詞	成美堂出版			
標準臨床検査学 基礎医学 人体の構造と機能	岩谷良則	医学書院			
〔参考書〕					
最新臨床検査学講座 解剖学	秋田恵一、星治	医歯薬出版株式会社			
最新臨床検査学講座 生理学	奈良信雄、和田隆志	医歯薬出版株式会社			
配付資料					